

国語 — 岡山大学 2022 年入試問題分析 — 岡山進研学院

全体講評：大問数・形式とも昨年並み。分量はやや減少し、難易度はやや軟化した。評論・古典ともに、本文は読みやすいが、設問意図を正確に踏まえてないと解答がズレやすい岡大らしい出題だった。特に小説文は解答の方向を決めにくい設問であり、差がついたと思われる。漢文では、共通テストを彷彿とさせる複数出典の比較問題が出された。今年もコロナによる学習の遅れを踏まえ、設問内容と設問指示にいくつかの工夫がみられた。全体的に記述量が多いが、問題文量が減少したため時間的余裕はあった。

試験時間

120 分

難易変化

易化 / 昨年並 / **やや難化**

分量変化

減少 / 昨年並 / 増加

大問	区分	出典・著者	分量・小問数・本文／設問特徴	レベル
一	評論文	『日本人と神』 佐藤弘夫 (講談社現代新書)	4 ページ。昨年より 1 ページ減少。小問 5 題。前近代と近代とを対照し、目に見えない超越者の存在が人間社会の緩衝材としての役割を果たしていた前近代の特徴を論じている。指示内容に注意。	★
二	小説文	「杏子」 古井由吉 (新潮文庫『杏子・妻隠』所収)	6 ページ。昨年より 1 ページ減少。小問 5 題。対話内容、心理の変化、状況の把握が難しい設問で短時間のうちに設問意図を把握し、解答方針を決める必要があった。解答は簡潔さが求められた。	★★
三	古文	『大和物語』 作者未詳	2 ページ。昨年より 1 ページ減少。小問は 4 題で設問数も 1 問減った。適訳だけでなく、本文に直接描かれていない真意を推測させる問や、文脈を踏まえて言葉を補うなどの工夫が求められた。	★
四	漢文	『 ^{せんげい} 剡溪漫筆』 孫能伝	3 ページ、小問 5 題は昨年と変わらず。複数のテキストの共通点や相違点を導かせる共通テストの形式を踏んだ出題だった。古文同様、単なる訳出ではなく、事態を一般化して答える必要がある。	★

学習指針：

現代文・古典ともに学校の教科書学習が有効な設問だった。評論では設問の意図を読み取るために、日頃から文章の要点を段落ごとに整理する練習を積み重ねておきたい。小説は心情説明の理由 POINT をしっかり書くこと。古文では特に「和歌の解釈」のための文法事項や知識をおさえ、教科書の「学習のねらい」や「学習のてびき」の考察に丁寧に取り組んでおこう。漢文の基本構造を絶えず意識し、書き下しを音読して独特の表現に慣れよう。

※ 難易変化、並びに分量変化は対昨年比となっています。

※ レベル表示は次の区分になります。

難 → ★★★

やや難 → ★★

標準 → ★

やや易 → (無表示)

易 → (無表示)